

風力発電計画と地域の自然環境

シンポジウム

地域と自然のための風力発電とは

2017年10月15日(日) 豊富町ふらっときた

NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク 長谷部 真

道北地方(宗谷岬～天塩町)

2100km²≒東京都
東西30km・南北80km

環境

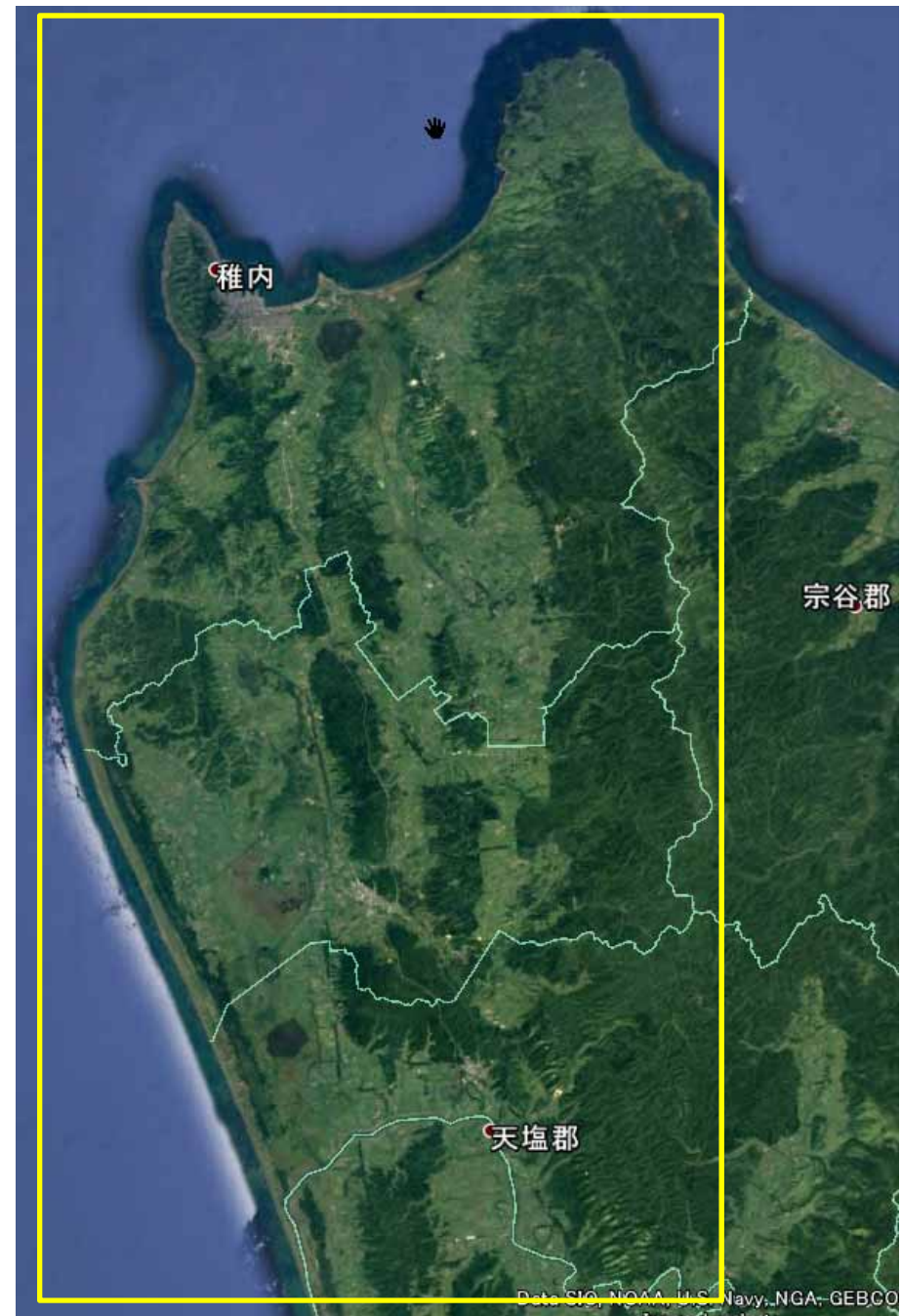
牧草地

東側・丘陵地 森林

海岸・草原と砂丘林

サロベツ・河川沿い

湿地



サロベツの国立公園と周辺の自然



公園の特長

利尻山が生み出す多彩な景観、

サロベツ湿原センター木道からの風景

花咲き誇る最北の公園—北辺の島と原野、華麗な花園と豊かな海—

指定：昭和49年9月20日

面積：24,166ha

北海道

環境省HPより

利尻礼文サロベツ国立公園は、山岳、お花畑、海食崖、湿原、海岸砂丘など変化に富んだ景観を誇る日本最北の国立公園です。

利尻山は、利尻富士とも呼ばれるコニーデ型の美しい山で、公園のシンボリックな存在です。礼文島では、レブンアツモリソウなどの貴重な植物を含む高山植物のお花畑を低地で見ることができます。抜海、稚咲内海岸では、帯状に発達した数列の砂丘の間に湖沼が点在し、ミズナラ、トドマツの砂丘林とともに珍しい景観を呈しています。サロベツ原野は、泥炭地の上に日本最大級の高層湿原が広がっており、またガンやカモなどの野鳥の渡りの重要な中継地にもなっています。

この地域の代表的な景観

- ・ 宗谷丘陵
- ・ 大沼・兜沼・パンケ沼等の湖沼
- ・ 海岸砂丘
- ・ サロベツ原野
- ・ 牧草地（大規模草地等）



宗谷岬の風景(北海道遺産) 写真:稚内印刷 提供



大沼バードハウスからの風景(ハクチョウ飛来)



メグマ沼木道からの風景(高層湿原)



日本海側の海岸砂丘の風景

北海道自然環境保全指針 すぐれた自然地域の すぐれた砂丘・砂浜



サロベツ湿原センター木道からの風景



幌延ビジターセンター展望台からの風景



パンケ沼からの夕日

環境省の環境フォトコンテストで最優秀賞が出た風景

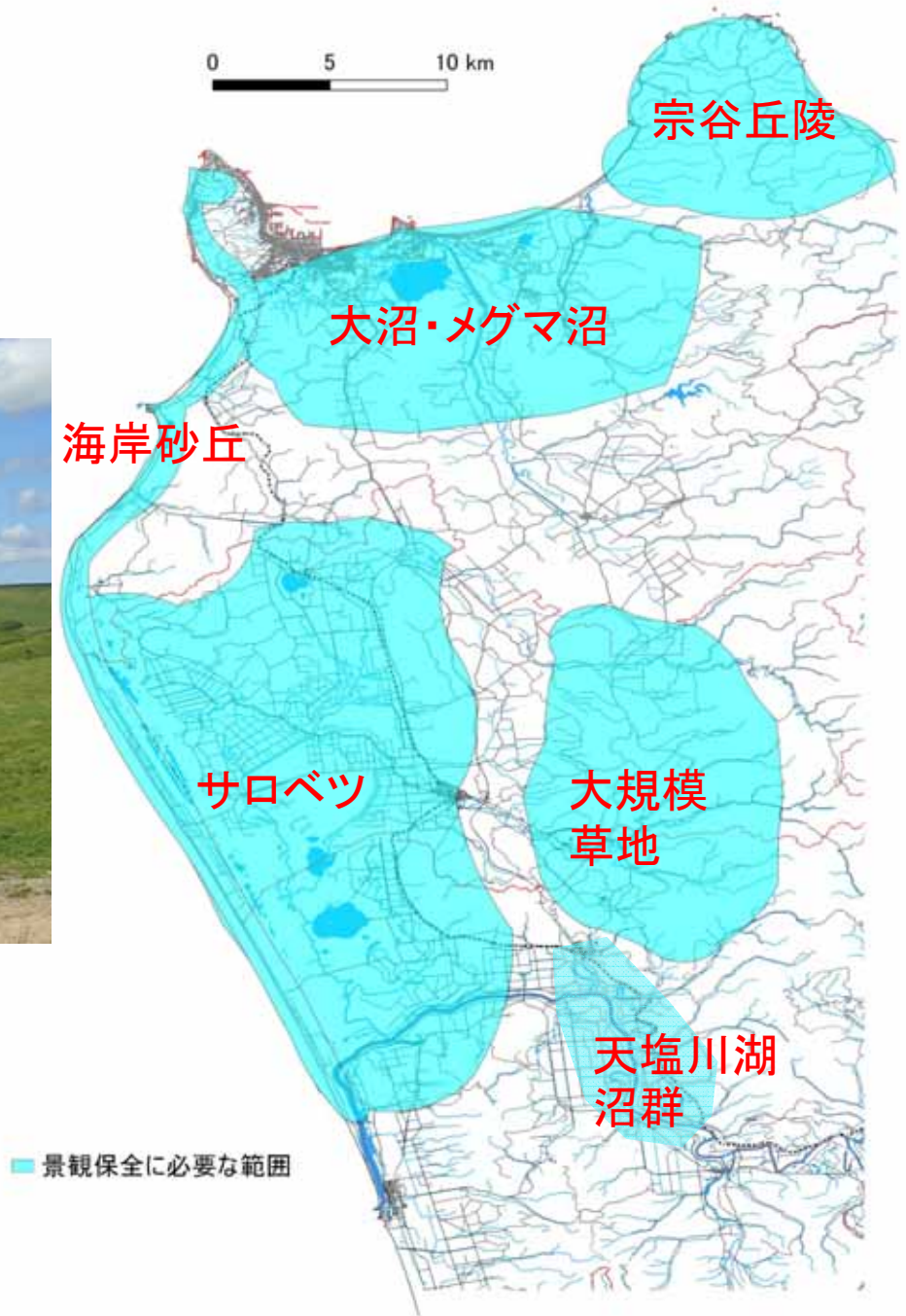


大規模草地の風景(豊富町)

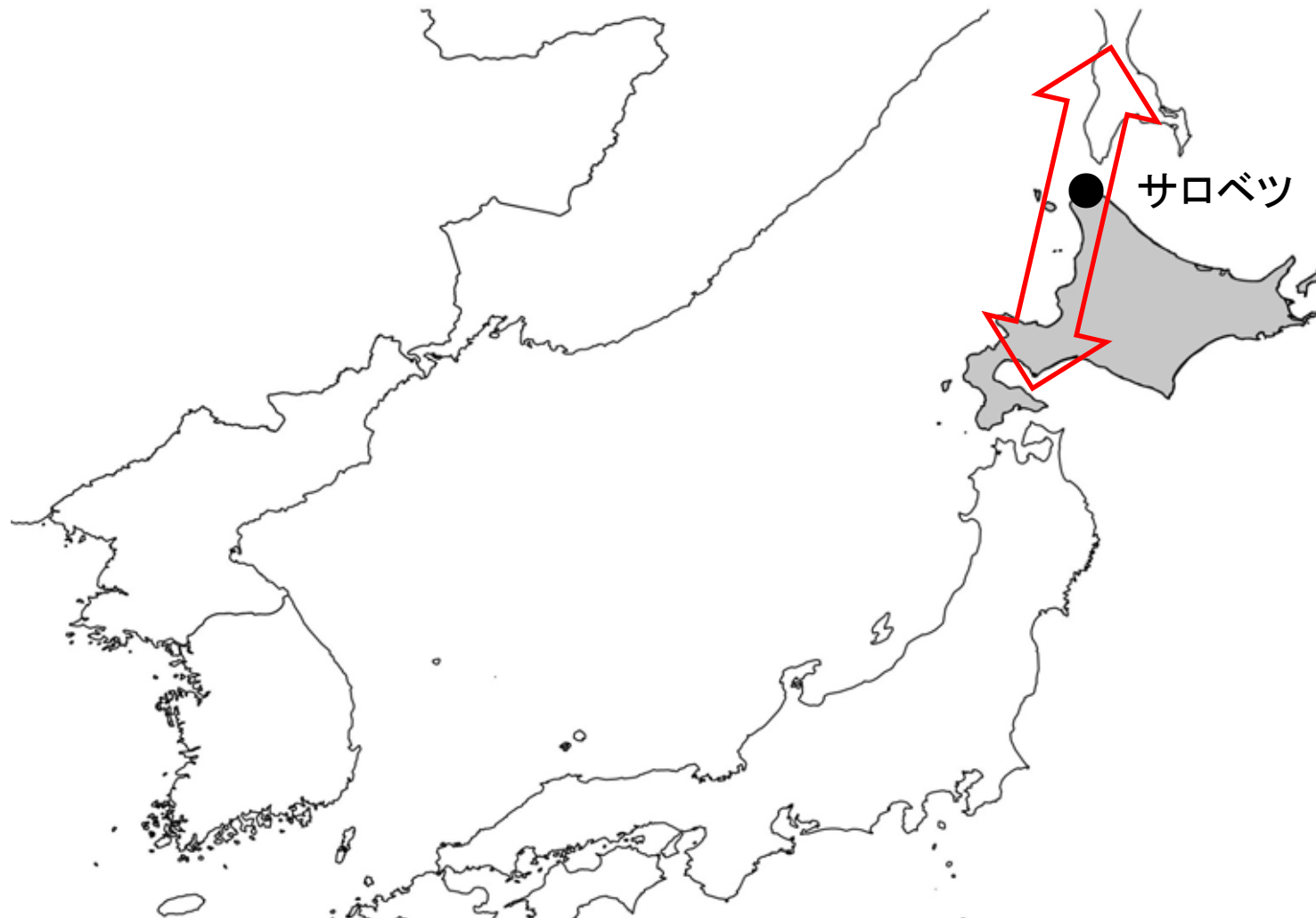
平成28年韓国人モニターツアーで高評価

これらに共通しているのは「何もない広々とした風景」

景観保全に配慮するべき地域



多くの鳥類が宗谷地方を利用・通過



宗谷地方は日本とサハリンを結ぶ
鳥類の国際的に重要な渡り経路に位置

オジロワシ・オオワシ

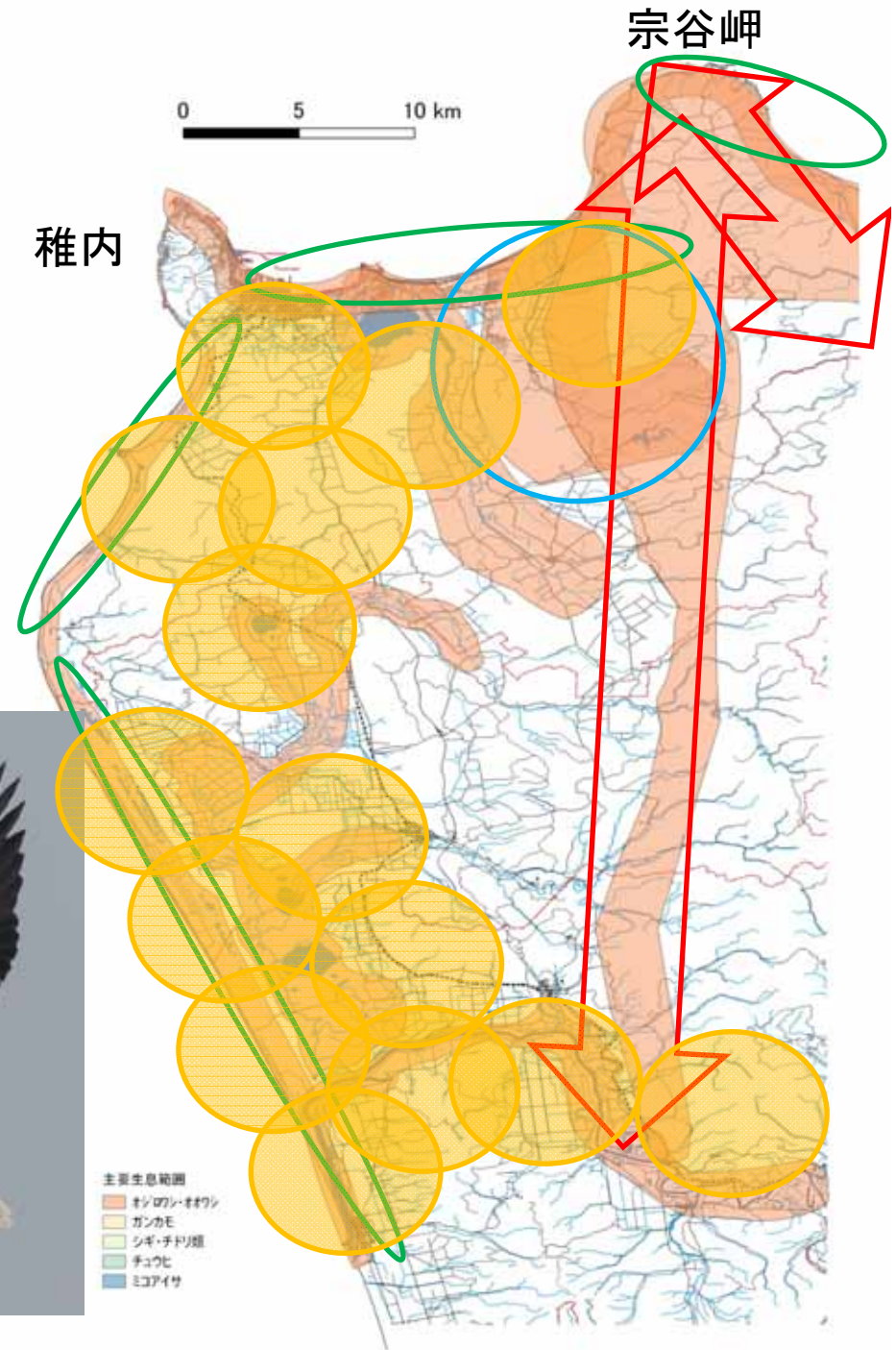
渡り経路・集積地

越冬地（海岸）

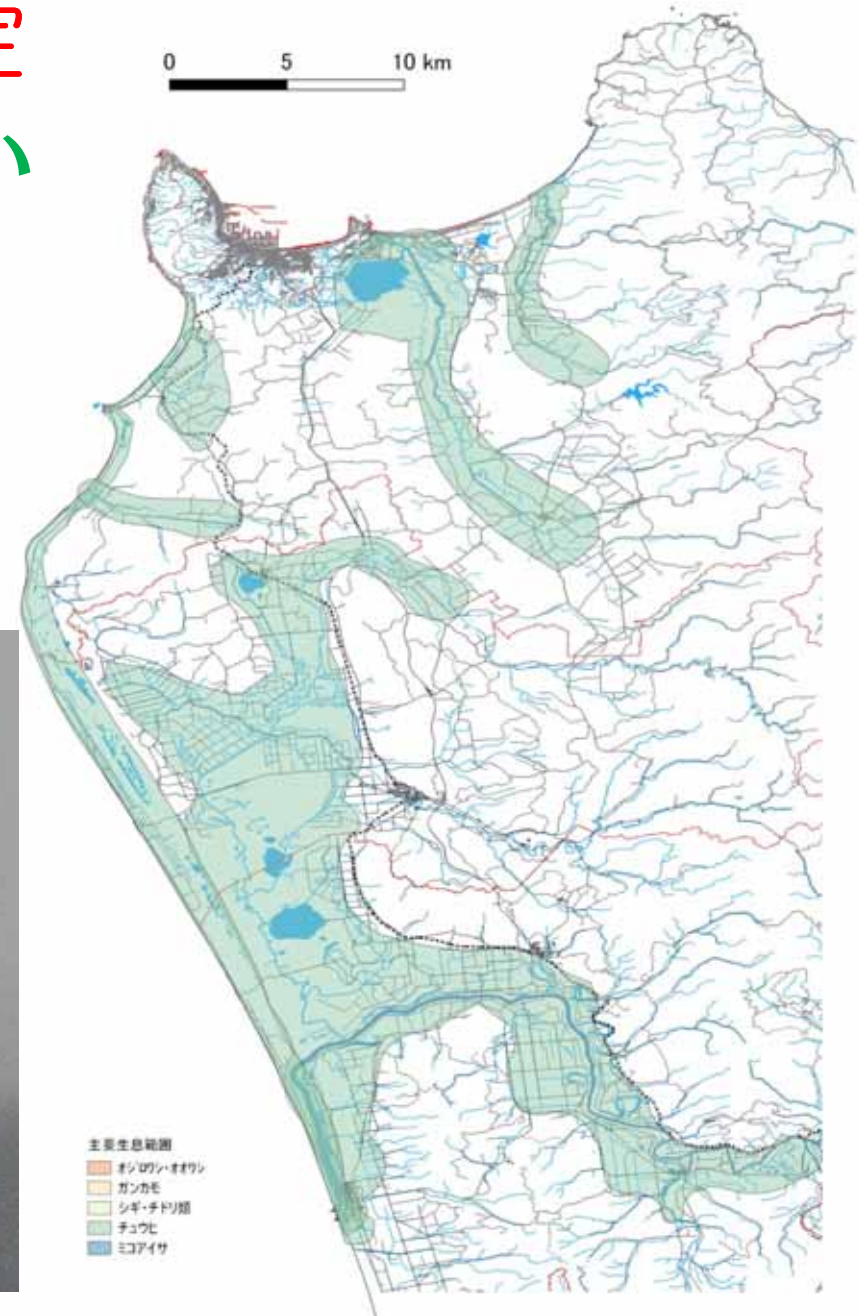
オジロワシ巢

天塩川沿い・海岸い

山間部 20巢以上



チュウヒ 種の保存法に指定
平地の湿地・湖沼河川沿い
ササ原・牧草地
天塩川・海岸沿い・
大沼・サロベツ等
20巣以上



ガン・ハクチョウ類中継地

大沼(モニ1000サイト)

オオハクチョウ	1000羽
コハクチョウ	5000羽

兜沼(モニ1000サイト)

マガン	15000羽
オオヒシクイ	1000羽

泥炭採掘跡地

マガン	4000羽
-----	-------

ペンケ沼(モニ1000サイト)

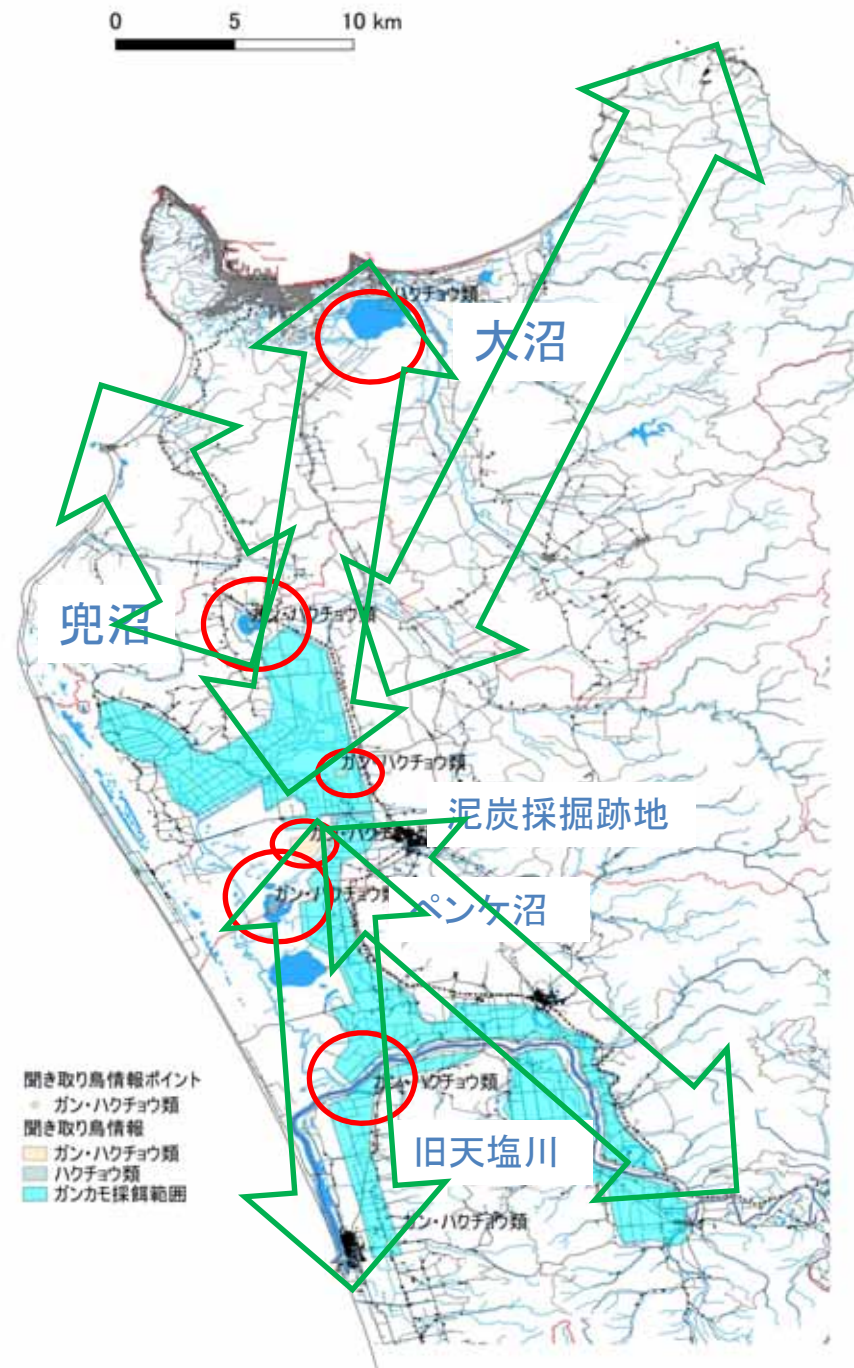
マガン	26000羽
オオヒシクイ(国内最大)	5000羽

旧天塩川(モニ1000サイト)

マガン	10000羽
オオヒシクイ	1000羽

モニ1000結果などより

渡り 春:4-5月上旬 秋9-11月





大沼



兜沼



ペンケ沼



振老沼(天塩川三日月湖)



牧草地



刈り取り後のデントコーン畑



春に氾濫した牧草地

ガンカモ類

渡り経路、中継地・餌場



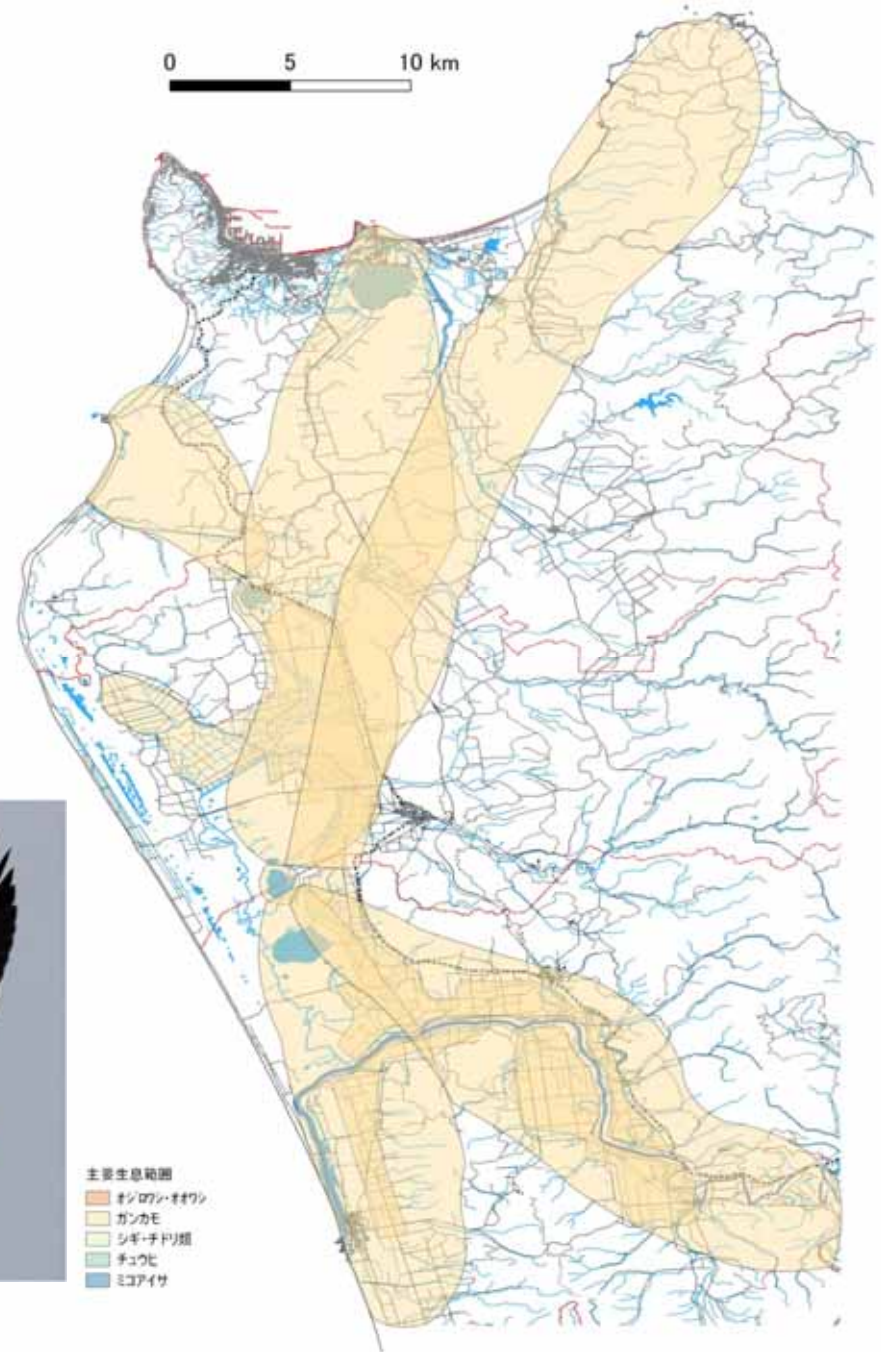
ヒシクイ



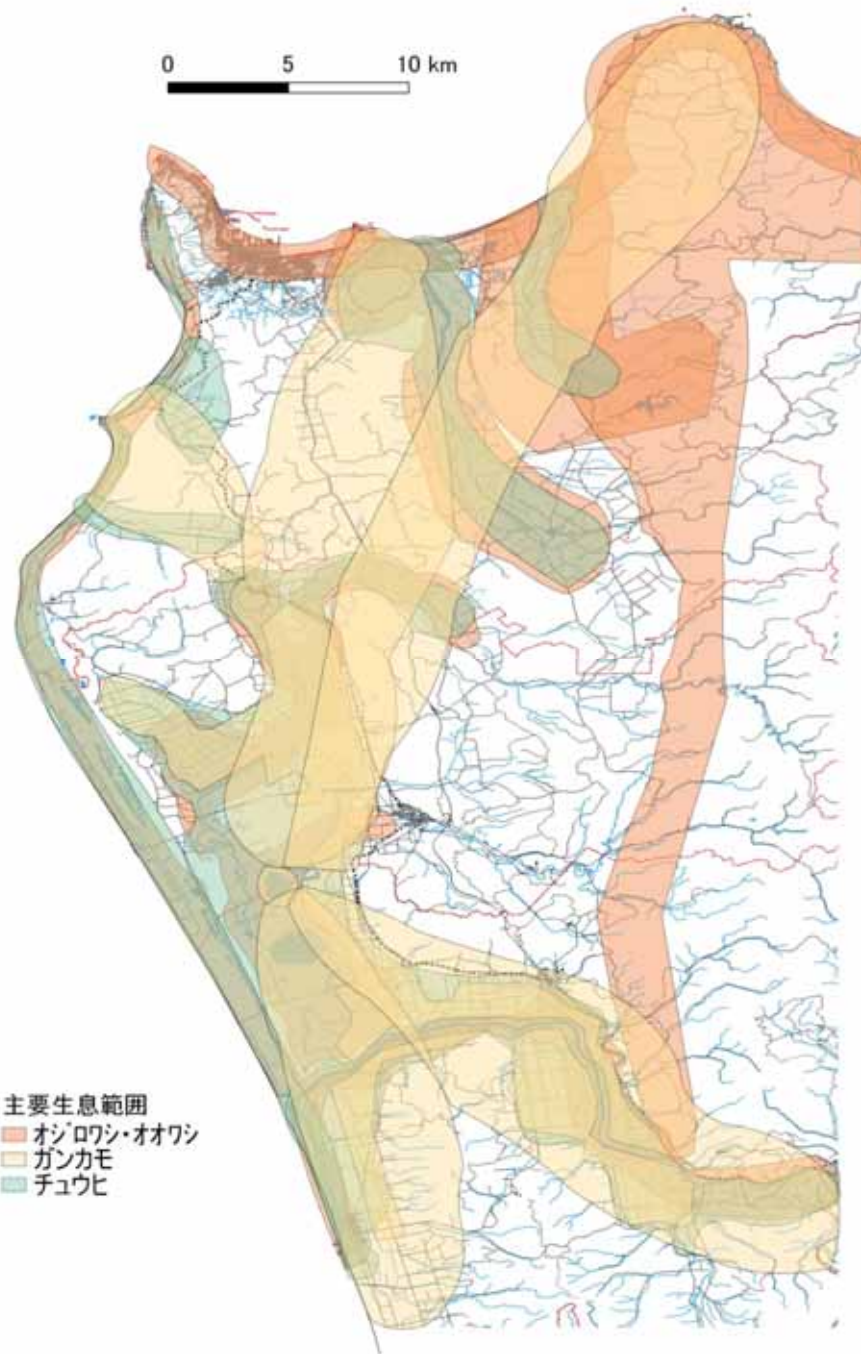
コハクチョウ



マガン



海ワシ・チュウヒ・ガンカモ の重要地域を合わせる





オオジシギ



タンチョウ



シマアオジ



ツメナガセキレイ

渡りの実態はわかっていない(特に小鳥類)

サロベツの鳥類



コミミズク



ユキホオジロ



ベニヒワ

道北地方の風車建設計画

0 5 10 km

- 計画風車位置
- 既存風車位置
- 計画風車範囲
- サロベツ国立公園

宗谷岬

宗谷岬



道北7事業 (道北エネルギー)

勇知・川西・樺岡・増幌・芦川・川南・豊富山

浜里 (道北エネルギー)

位置が未定の計画

宗谷岬 (道北エネルギー)

勇知・川西・有明・幌延・天塩 (エコパワー)

勇知・有明 (三浦電機)

合計で200基以上



環境アセスの手続きと評価項目



環境アセスメントの手続き期間
3 ～ 4年程度



関島恒夫氏
資料

道北7事業や浜里（環境影響評価の準備書）一部の風車の取りやめ・配置変更→影響少ないと評価

・本当に影響が少ないのだろうか？

1. 野生生物への影響の確実な予測は不可能。

不明な点 小鳥の渡り、夜間の渡り、複数の事業によるバードストライクや移動障害の影響等

→予防原則に基づいていない

2. 地域の原風景が大きく変わる恐れがある大規模な計画

景観の価値は主観的であるとして、一部の観光地からの利尻富士の眺望以外考慮されていない

宗谷岬

0 5 10 km

ガン・ハクチョウ類渡り
調査結果 2016年9-10月
2017年4月の一部

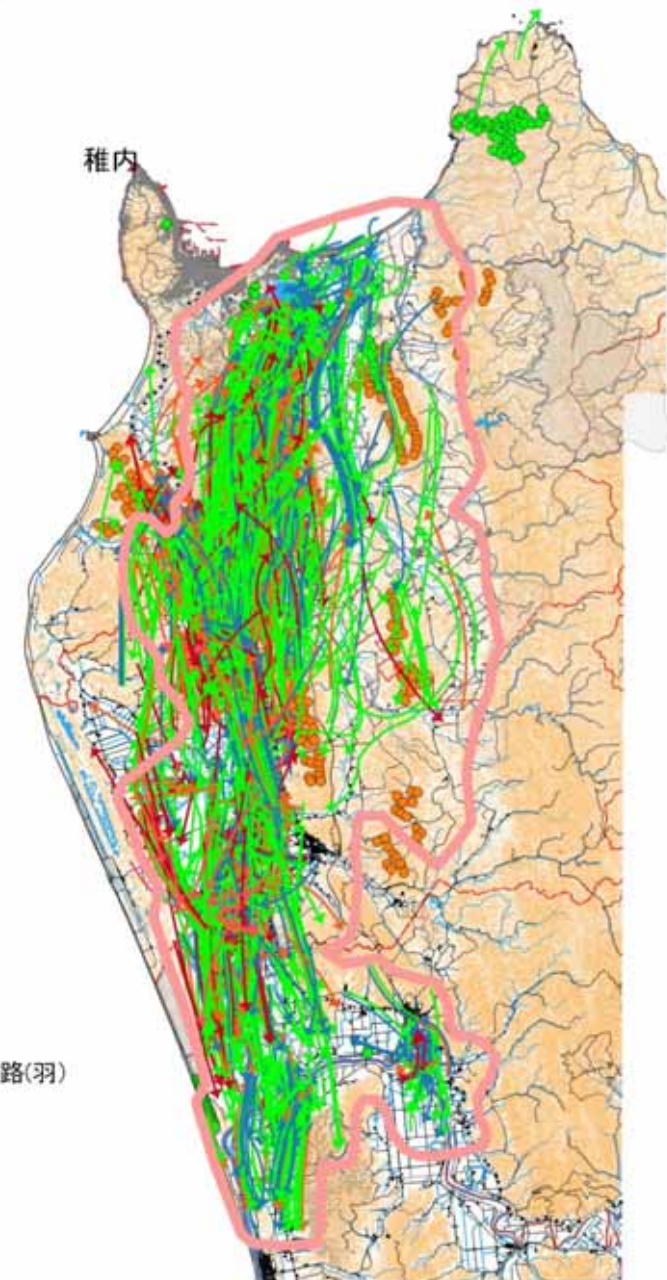
(日本野鳥の会)

大沼・サロベツ・天塩川
下流間の主要渡り経路
に計画

ガン・ハクチョウ類は渡りの
際に風車を避けなければな
らないのか?

回避経路はあるのか?

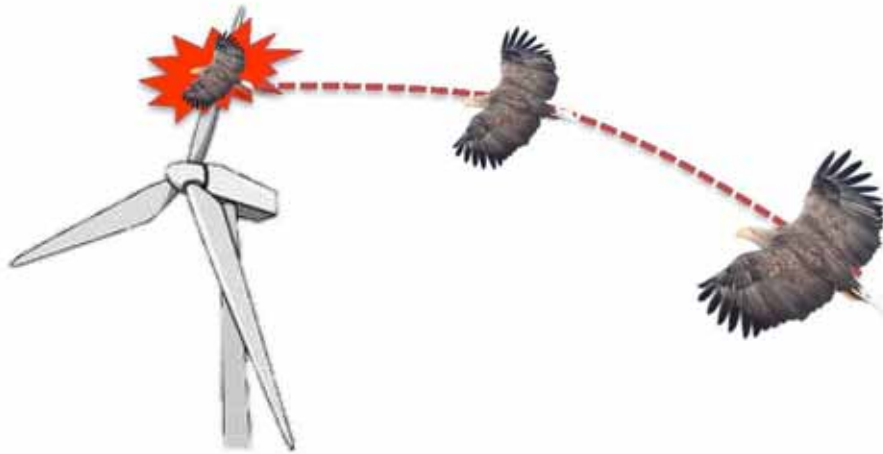
環境影響評価の主目的は現
状を変えないことではない
のか?



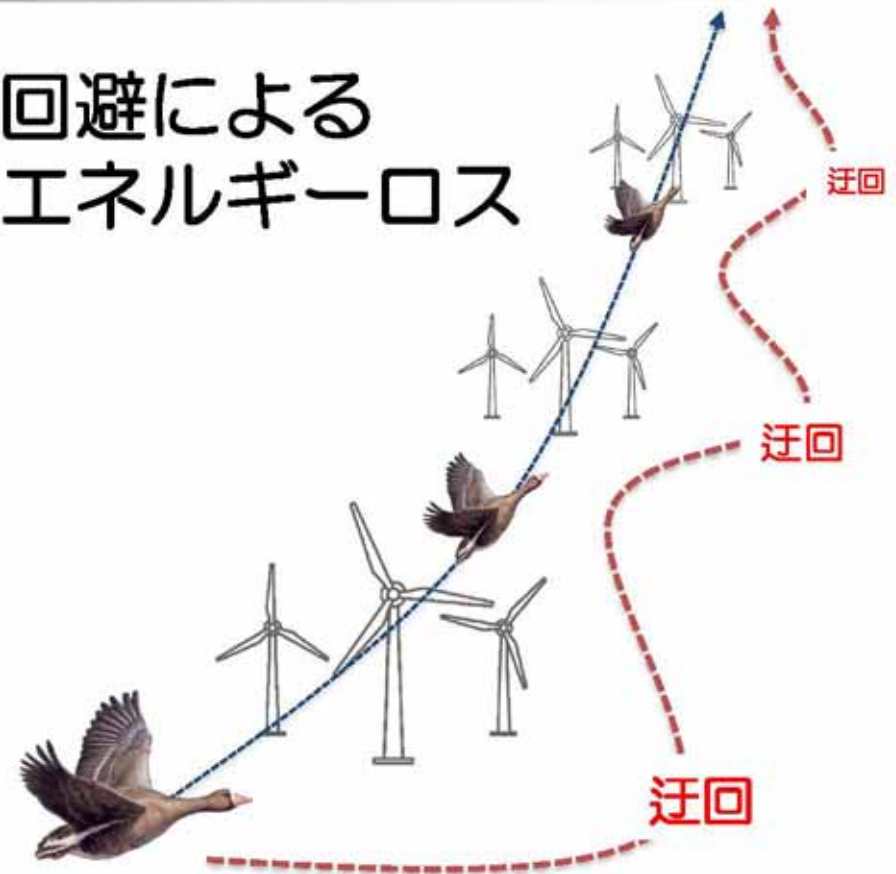


風発により懸念される影響

鳥衝突



回避による
エネルギーロス



関島恒夫氏資料



将来的に生息地放棄に繋がる可能性あり

・地域との合意形成がなされているのか

1. 環境影響評価の情報公開が不十分

一般住民 事業の存在知らない

- ・縦覧期間以外 図書閲覧不可 将来影響検証不可
- ・閲覧場所 平日の日中のみ閉館
- ・インターネット閲覧 印刷 保存不可
- ・利用しにくい説明会 平日日中 広報不足 参加者少

2. 地域との協議によるゾーニングされていない

市町村の意向 → 地元の意見とみなす

- ・稚内市(風車建設を避けるガイドラインの地域に計画)
- ・豊富町(国道40号より西に計画なし)
- ・幌延町(周囲が国立公園の場所に計画)

環境保全団体・地域の団体 との協議の場がない

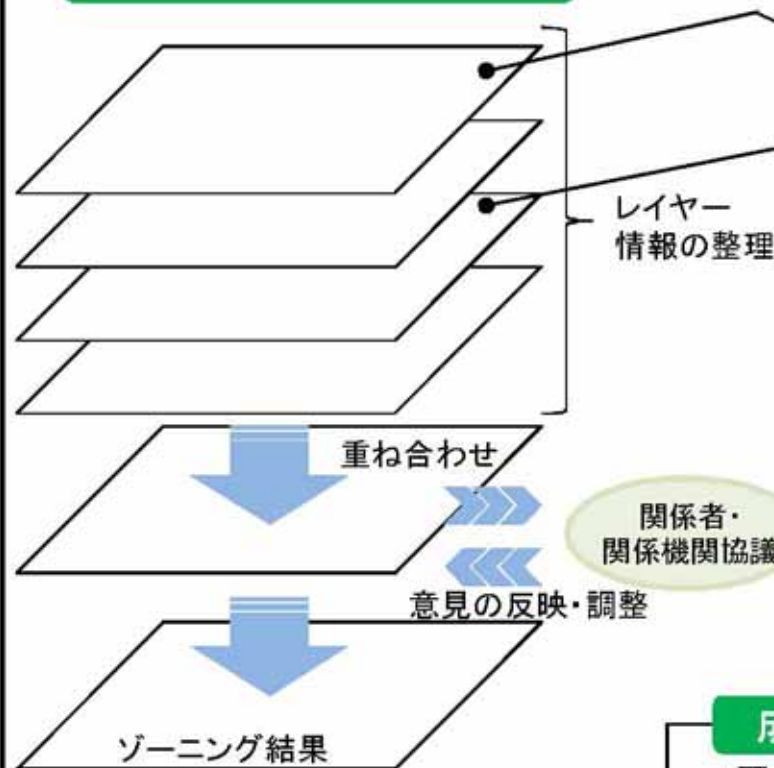
- ・意見書 公聴会の意見陳述のみ

風力発電等に係るゾーニングとは？

協議の上計画を決める

今回の検討では、「環境保全と再エネ導入推進の観点から、それぞれの目的を達成するための区域(保全すべきエリア、推進エリア等)について、関係者間協議などを踏まえながら、総合的に評価する取組」とする。

作業のイメージ



扱う情報 - 事業者のゾーニング

- 【事業性】
 - ・風況、地形情報(標高、傾斜等)
 - ・アクセス性(道路網、送電網) etc
- 【環境配慮事項】
 - ・環境保全、国土保全、農業振興等に関する法規制
 - ・鳥類の営巣地、渡り等の情報
 - ・景観(観光地からの見え方等)
 - ・住宅集合地からの距離 etc

配慮書

考慮なし
(準備書で評価)

関係者・関係機関との調整

- ・協議会、検討会等に関係者・関係機関が参画
- ・個別ヒアリング、パブリックコメント

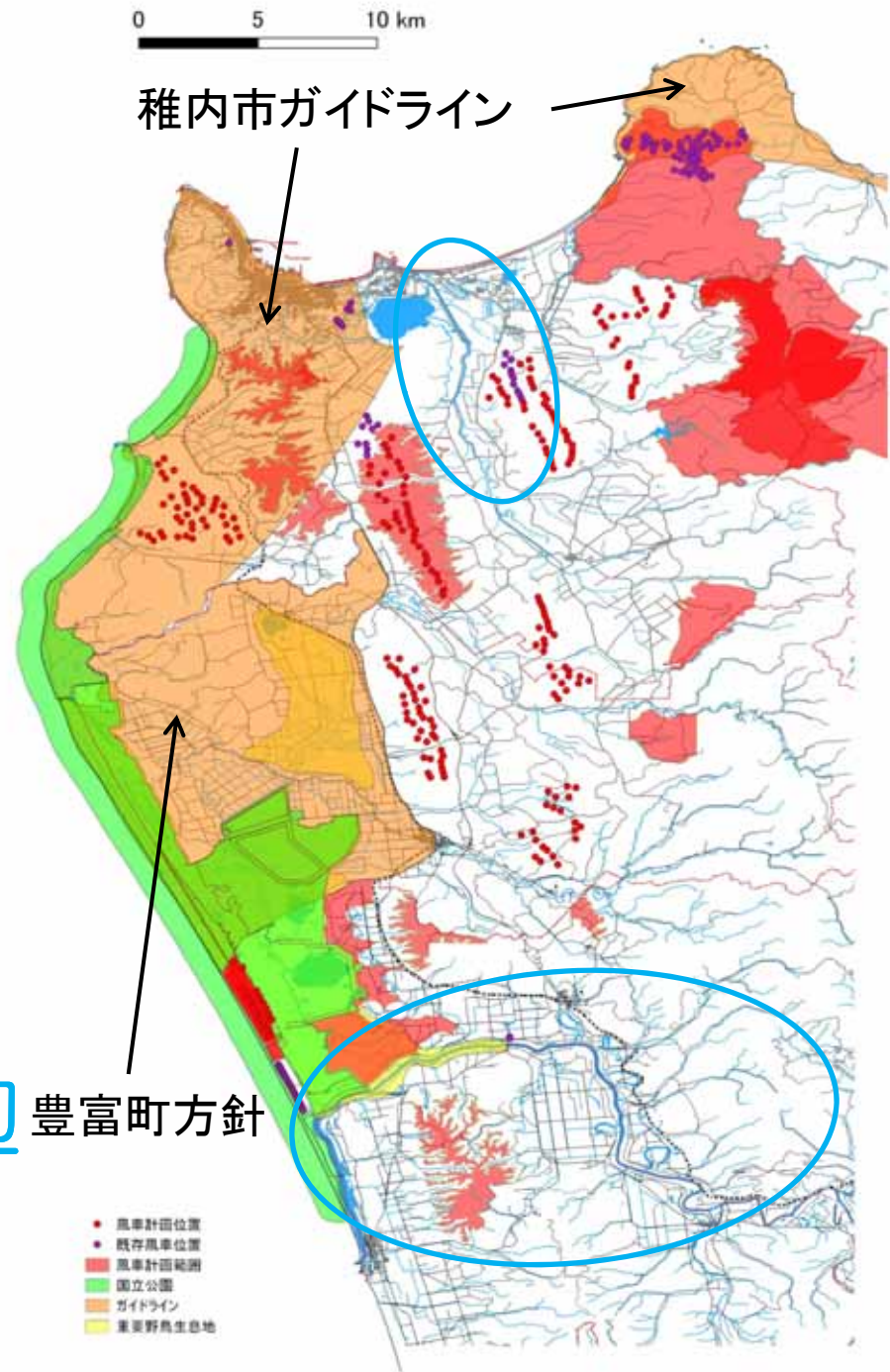
ほとんど実施されていない

成果の活用法

- ・マップの公開、事業者説明会等による誘致促進 etc

指定地域等に計画

周田が国立公園(浜里)
重要野鳥生息地(浜里)
ガイドライン等で風車の建設を避ける地域
(勇知周辺・宗谷岬)
保安林(宗谷岬、樺岡、川西、勇知、有明)
ラムサール湿地候補地周辺
(樺岡・天塩川下流)

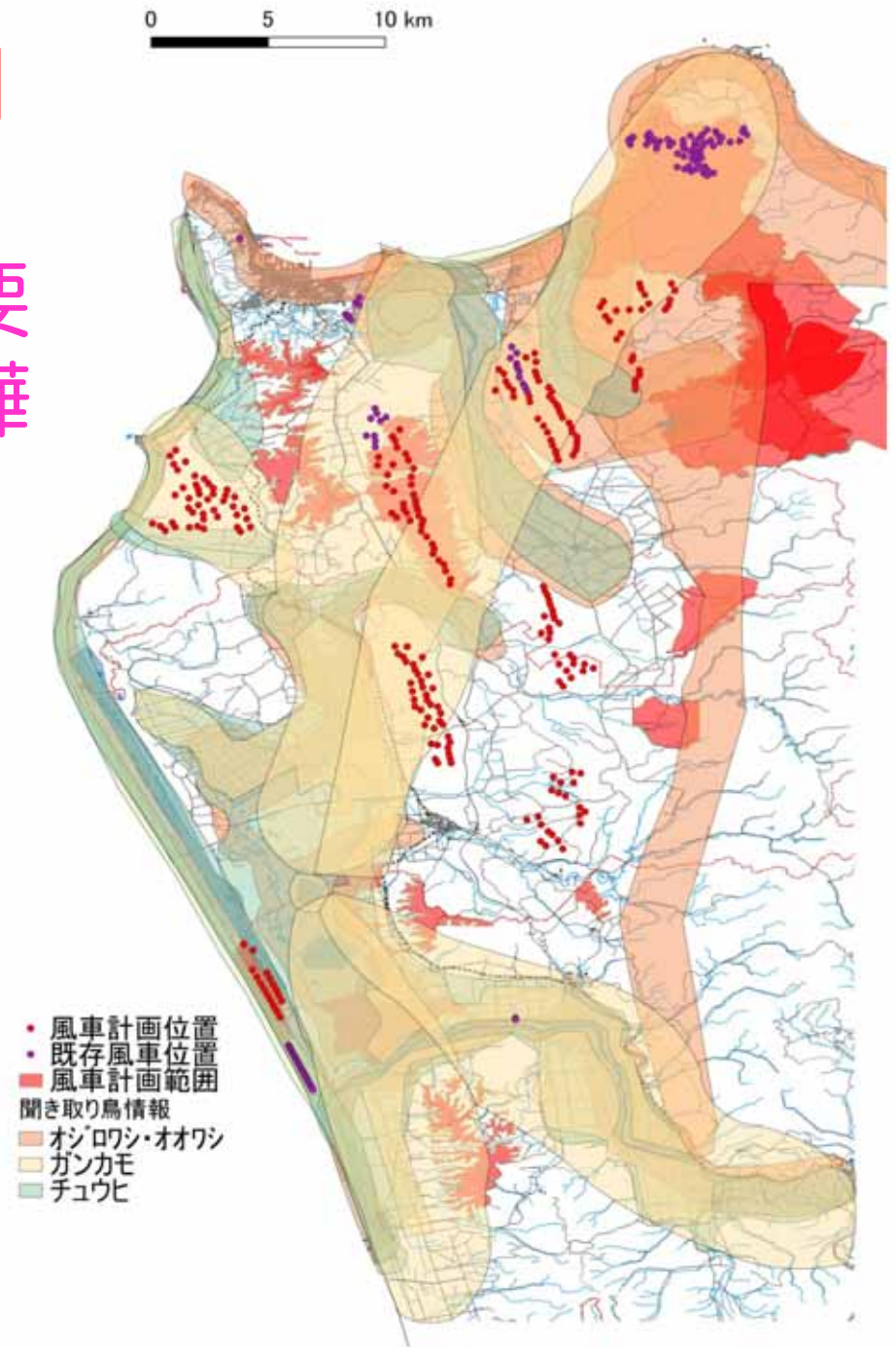


鳥類の重要な生息地周辺に計画

・海ツシ類の渡り経路、主要な生息地(宗谷岬・増幌・樺岡・川西・有明・勇知)

・チュウヒの主要な生息地(浜里ほか)

・ガン・ハクチョウ類の渡り経路(宗谷岬・増幌・樺岡・川西・芦川・勇知・浜里)



冬期海ワシ調査

(日本野鳥の会)

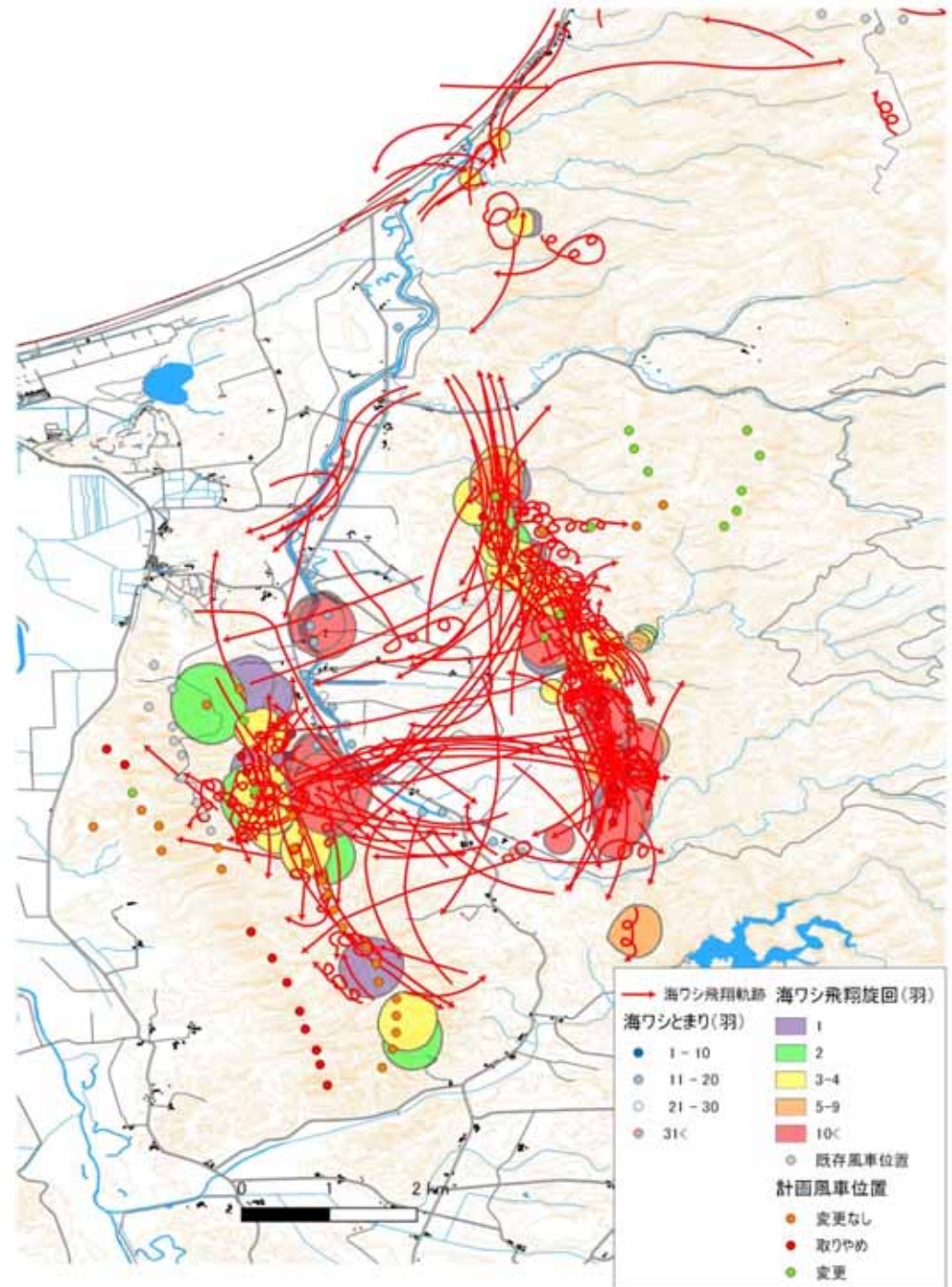
海ワシ集積地周辺に計画

(増幌・樺岡)

→アセス意見 影響が著
しい風車 取りやめ
・ゾーニングにより、避
けられた可能性



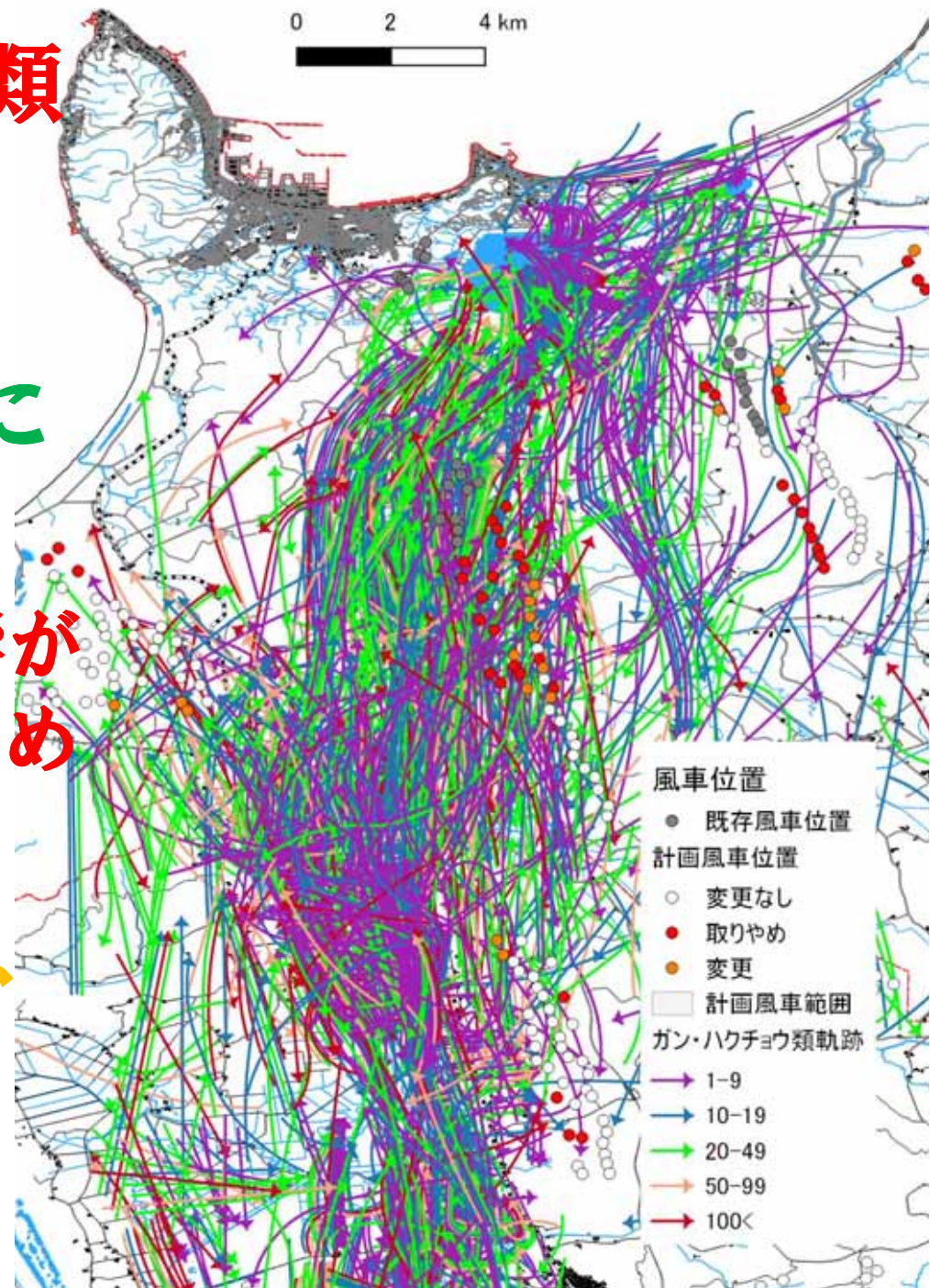
風況ポール上を集団旋回する海ワシ増幌



ガン・ハクチョウ類
渡り調査(秋・春)
(日本野鳥の会)
主要な渡り経路に
計画

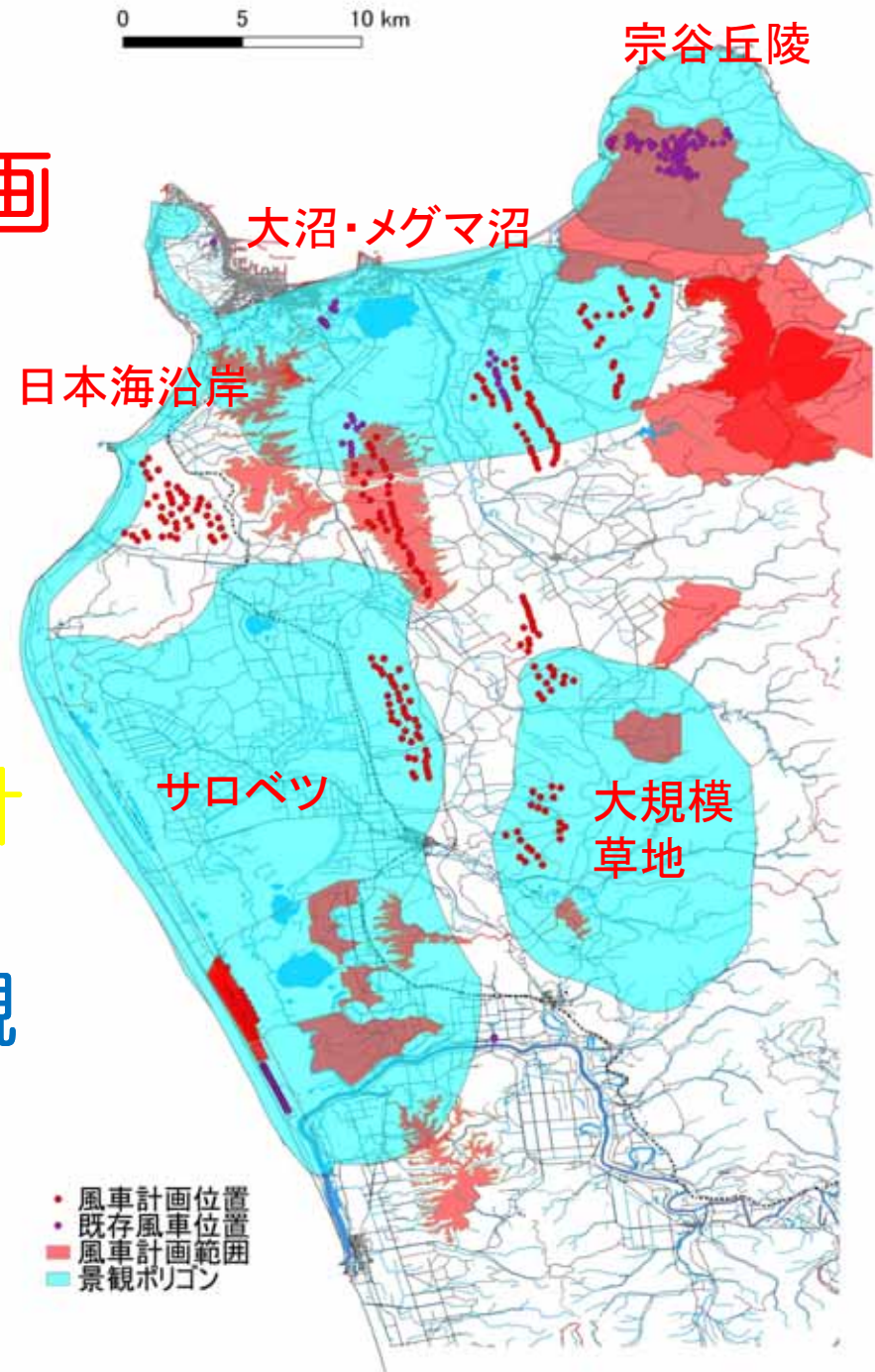
→アセス意見 影響が
著しい風車 取りやめ

・ゾーニングより、
避けられた可能性



地域の原風景等を損なう恐れがある場所に計画

- ・サロベツに隣接
(浜里・芦川ほか)
- ・地形レットデータブック・
北海道遺産
(周氷河地形・宗谷岬)
- ・北海道自然環境保全指針
すぐれた砂丘(浜里)
- ・大沼・メグマ沼からの景観
(川西・樺岡・増幌ほか)
- ・大規模草地の景観
(豊富山・有明ほか)



天塩から稚内までずっと風車を見ながら移動
利尻富士の景観に風車がかかる場所出てくる



大沼バードハウスから利尻富士を見た景観



風車
↓

風車はイメージです 実際とは異なります

サロベツ湿原の向こうの丘陵に風車計画(芦川)



幌延ビクターセンター展望台から見た海岸砂丘林の風車計画イメージ (浜里)

事業者の予想図を参考に作成(風車の位置や大きさは若干異なります)

利尻富士の景観を阻害しないよう配慮(道北エナジー)



パンケ沼から見た海岸砂丘林の風車計画イメージ(浜里)

事業者の予想図を参考に作成(風車の位置や大きさは若干異なります)

環境省の環境フォトコンテストで最優秀賞が出た風景

風車によりサロベツの景観が失われます



幌延町浜里地区の風車建設計画位置

国立公園の特別保護地区

浜里の事業地は周囲が国立公園



大規模草地の風景に風車が入る(豊富山・道北エネルギー)
平成28年韓国人モニターツアーで高評価

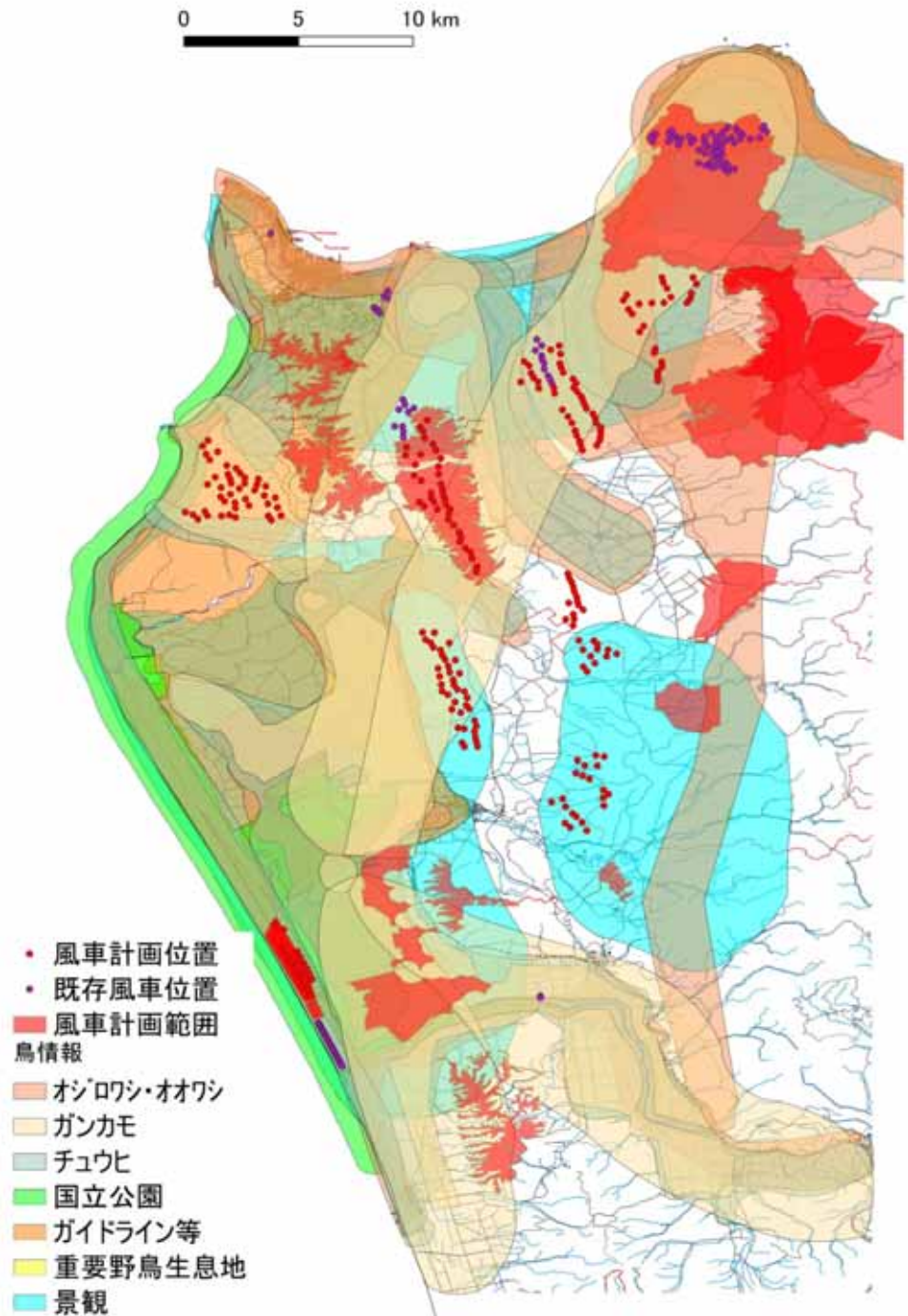
風車はイメージ 実際とは異なります

地域指定・鳥類・景観 等を重ねたゾーニング

この地域には重要な鳥類
の生息地や景観が集中し
ている

このゾーニングを一つの
材料として関係機関と協
議が必要

それがなければ合意形成
とは言えない



地域にとっての風車建設

風車建設による地域への利益

- 固定資産税の増収 → 地方の交付金減?
- 税収の増加 → 本州企業関連会社
- 地権者の賃料収入増 → 一部の人
- 風車建設による仕事 → 一時的その後不況
- 風車維持管理の仕事 → IT遠隔管理化の傾向

発電した電気は札幌や東京へ → 企業の利益

地域住民にとって利益はないのでは?

風車建設による地域の不利益

1. 景観の悪化 → 観光産業に影響
2. 生物の生息環境の悪化 → 観光産業に影響
3. 騒音等による健康被害の懸念

小型・中型風車



羽幌町中型風車



初山別村中型風車



遠別町小型風車



稚内市中型風車

小型・中型風車

環境アセス手続き不要

無秩序に建設

海岸の道路沿い

小型10m・中型30m程度

遠別町(小型34基)

初山別村・羽幌町・苫前町

(中型15基)

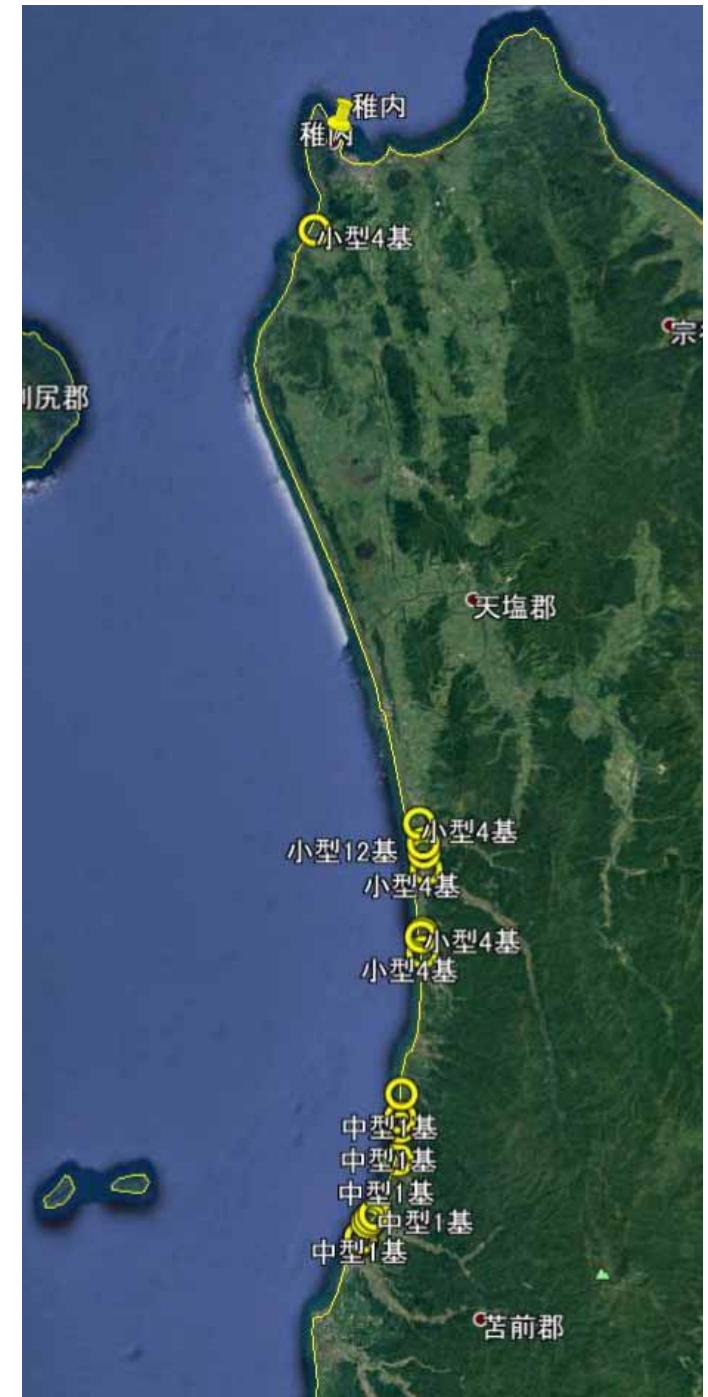
稚内市小型20基、中型1基

さらなる計画あり

小型 小鳥等衝突等

中型 大型風車と同様の影響

ガイドライン・条例が必要



この地域の主な観光資源



湿原(木道ガイド)



野鳥(観察ツアー)



雄大な景観(フットパス)



サロベツ川(カヌー)

鳥観察を観光資源に

宗谷地方のバードウォッチングの楽しみ方



■オジロワシ・オオワシの観察

オジロワシ・オオワシの渡りは11月・3-4月に宗谷岬周辺でサハリンとの渡りが観察できます。増穂川流域は両湖の中継地となっており、11-12月、3月の川が凍結していない期間に多くのワシが観察可能です。天塩から稚内にかけての海岸線は漂着物があると多くのオジロワシ・オオワシが集まります。道路沿いで観察の際には通行の妨げにならないよう配慮することが必要です。



■ガン・ハクチョウ類の観察

マガン・オオヒシクイ・コハクチョウ・オオハクチョウの渡りは4月～5月上旬、8月中旬から10月中旬かけてです。マガン・オオヒシクイのねぐらとして豊富町の先沼・泥炭採掘跡地(観察不可)、ペンケ沼(観察不可)、天塩町振老沼、ハクチョウ類の主要なねぐらとして、稚内市の大沼、狭井村のボロ沼、浜頓別町クッチャロ湖があります。これらのねぐら周辺の牧草地にはマガン・オオヒシクイが採餌・休息していることがあり、春の雪解け水により冠水している牧草地にはコハクチョウやオオハクチョウも混じっています。牧草地周辺で観察する際には、牧草地に入らない、農作業車の通行の邪魔にならないよう配慮が必要で、振老沼は沼に驚かせない様に沼に近づき過ぎないことが必要です。



■コオリガモほか、カモ類の観察

日本で最もコオリガモを観察しやすいのは稚内港の副港で、12月から3月頃まで多いときには数十羽の群れを観察できます。このほか、シノリガモ・クロガモ・スズガモなどが観察でき、ピロードキンクロ、ウミガラス、ケイマフリが現れることがあります。港での観察の際には漁業関係者の作業の支障とならないように配慮が必要です。



■シマアオジ・ツメナガセキレイの観察

シマアオジは豊富町のサロベツ湿原センターの木道に6月に観察されます。国内でもサロベツ湿原、その中でも木道周辺にしか残っていない、国内でも最も絶滅が懸念される鳥類です。観察の際には追わない、大きな音を立てない、長時間滞在しないなど最大限の配慮が必要です。ツメナガセキレイは稚内市メグマ沼湿原木道、浜頓別町ベニヤ原生花園、幌延町幌延ビジターセンターの木道などで観察できます。周りを警戒しながら飛び回る場合は、近くに巣がある可能性があるため、長く滞在せず立ち去るなどの配慮が必要です。

施設のご紹介

●稚内市大沼野鳥観察館

〒097-0000 稚内市大字戸町字戸開原野
TEL:0162-26-2965
営業期間1月29日～11月25日
※但し3月1日～24日まで休館
休館日:期間中無休
営業時間:午前9時～午後5時

●サロベツ湿原センター

〒098-4100 北海道天塩郡豊富町上サロベツ8662番地
TEL:0162-82-3232
開館時間
11月～4月⇒開館時間:10:00～16:00 休館日:月曜日
5月～10月⇒開館時間:9:00～17:00 休館日なし
※ただし、6月、7月は、開館時間:8:30～17:30となります。

●幌延ビジターセンター

〒098-3228 北海道天塩郡幌延町字下沼
TEL:01632-5-2077
開館時間:9:00～17:00
開館期間:5～10月(期間中無休)/冬期間閉鎖(11～4月)

●浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館

〒098-5739 北海道枝幸郡浜頓別町クッチャロ湖畔
TEL:01634-2-2534
開館時間:午前9時～午後5時
休館日:月曜日、祝日の翌日、年末年始



Birdwatching in Soya

お問い合わせ先

北宗谷広域観光推進協議会

事務局…一般社団法人 稚内観光協会内
〒097-0022 稚内市中央3丁目6-1 キタカラ1階
TEL:0162-24-1216 FAX:0162-24-0016
Eメール:info@welcome.wakkanai.hokkaido.jp

特定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

〒098-4124 北海道天塩郡豊富町字豊富東 2条 5丁目
TEL 0162-82-3950/FAX 0162-82-1009

宗谷の野鳥観察

Birdwatching in Soya



稚内観光協会資料

鳥観察と風車は両立するのだろうか？ 稚内観光協会資料

種類	春・秋エリア	夏エリア	冬エリア
ウトウ		ABC	
ウミガラス・ケイマフリ			BC
ピロードキンクロ			BC
シノリガモ			BC
コオリガモ			B
タンチョウ		A	
オオハクチョウ	ABDE		
コハクチョウ	ABDE		
マガン	A		
オオヒシクイ	A		
アカエリカイツブリ		A	

種類	春・秋エリア	夏エリア	冬エリア
オオジシギ		ABDE	
オオワシ			ABCDE
オジロワシ	ABCDE	ABCDE	ABCDE
チュウヒ		ABDE	
ケアシノスリ	A		
ハイロチュウヒ	A		
コミズク			A
アリスイ		A	
クマガラ		D	
ツメナガセキレイ		ABD	
ミヤマカケス	ABCDE	ABCDE	ABCDE

種類	春・秋エリア	夏エリア	冬エリア
シマエナガ	ABCDE	ABCDE	ABCDE
シマセンニュウ		ABDE	
エゾセンニュウ		ABDE	
マキノセンニュウ		ABDE	
ノゴマ		ABDE	
コマドリ		ABCDE	
コルリ		ABCDE	
ユキホオジロ			ABDE
シマアオジ		A	
ベニヒワ			ABDE

エリア	区域
エリアA	サロベツ湿原、兜沼、天塩川、海、岸草原
エリアB	コウホネの沼、稚内、大沼、メグマ、沼湿原、声間の浜
エリアC	宗谷岬、宗谷丘陵、増幌川
エリアD	猿払川周辺、王子の森、エサヌカ海岸
エリアE	クッチャロ湖、ベニヤ原生花園

- トド島
- スコトン岬 ●金田ノ岬
- ゴロタ岬 ●久睡湖
- 澄海岬
- ▲礼文岳
- 礼文島
- 礼文町
- 地蔵岩
- 香深港
- 利尻島
- 利尻町
- 利尻富士町
- 利尻島
- オタトマリ沼
- 仙法志御崎公園

北宗谷野鳥観察エリア「北宗谷を野鳥と満喫！」

宗谷地方は北海道からサハリンを経てロシアと結ぶ国際的に重要な鳥類の渡りの経路に位置する宗谷海峡を境に東にオホーツク海、西の日本海には利尻島と礼文島があり、南西部の海岸沿いにあるサロベツ湿原は「利尻礼文サロベツ国立公園」になっており、ラムサール条約湿地や重要野鳥生息地に登録されています。

南東部に位置するクッチャロ湖は国立公園でラムサール条約湿地に登録されています。この地域は海岸草原、湿原、湖沼、砂浜など低地の環境が主体ですが、利尻島には標高1700mあまりの利尻山や、礼文島の西部には断崖が連なっています。

野鳥の渡り経路・中継地・繁殖地もある宗谷地方にはオジロワシ、オオワシ、タンチョウ、コハクチョウ、マガン、オオヒシクイ、オオワシ、オジロワシ、オオジシギ、ウミガラス、ケイマフリ、チュウヒ、ハイロチュウヒ、ケアシノスリ、クマガラ、ツメナガセキレイ、シマアオジなどの重要種や、ウトウ、ピロードキンクロ、シノリガモ、コオリガモ、アリスイ、ミヤマカケス、シマエナガ、シマセンニュウ、コマドリ、コルリ、ユキホオジロ、ベニヒワなどを始め、230種が確認されています。



全道フットパス→ (皆で散策路を歩く) 全道から100名が参加し、 豊富温泉に宿泊



宗谷岬のフットパス
(周氷河地形)

サロベツの酪農、湿原、温泉をつなぐフットパス

第24回
全道フットパスの集い
in とよとみ
2016年 9月24日(土) / 9月25日(日)

1日目	9月24日(土)	参加費: 500円
12:00	受付開始 (豊富温泉ふれあいセンター前)	
13:00	バスで移動 (温泉→夏の台原展望台)	
13:15	開会式・オリエンテーション (夏の台原展望台)	
13:30	フットパス「酪農と湿原コース」約9km	
16:30	バスで移動 (サロベツ温泉センター→豊富町民センター)	
17:00	講演会 (豊富町民センター)	
	講演1 小川 龍さん (エコ・ネットワーク代表)	「地域内から地域をつなぐフットパスへ」
	講演2 山本 寿昭さん (サロベツ酪農産物協会 会長)	「サロベツの自然と共生する酪農」
18:00	交流会 (豊富町民センター) 参加費4,000円【要予約】	
	出演: サロベツ豊富太鼓一鼓鳴響〜豊富町産の素材を使った夕食会	
20:00	交流会閉会 バスで移動 (豊富町民センター→温泉) 解散	

2日目	9月25日(日)	参加費: 500円
8:30	受付開始 (豊富温泉ふれあいセンター前)	
8:45	バスで移動 (温泉→豊富町自然公園)	
9:00	オリエンテーション (豊富町自然公園)	
9:15	フットパス「温泉コース」約6.5km	
11:00	終了・解散	
12:00	地元農家さんのおすもも分げつランチ 先着30名限定 参加費1,000円【要予約】	

■ 対象: 高校生以上【両日】 ■ 定員: 各日とも80名
■ どちらか1日だけの日程でも参加可能です
※ JRもしくは高速バスでお越しの方は、申込時にお知らせください。

【主催】第24回全道フットパスの集いinとよとみ実行委員会
【共催】フットパス・ネットワーク北海道 (FNNH)、(公財)北海道新発野生物産基金、北海道新発社
【協力】(協)環境市民団体エコ・ネットワーク、豊富温泉コンシェルジュアスク、(株)豊富牛乳公社、豊富町観光協会、豊富町スポーツ推進委員会、認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク、農村生活文化伝承活動をすすめる会
【後援】豊富町、豊富町教育委員会、環境省北海道地方環境事務所

このイベントには、豊富町の「ふるさと応援寄付金」が活用されています。

お申し込み 第24回全道フットパスの集いinとよとみ
お問い合せ 実行委員会 (サロベツ・エコ・ネットワーク内) TEL 0162-82-3950 FAX 0162-82-1009
申込 8月10日(水)～
締切 9月10日(土)

MAIL footpath@sarobetsu.or.jp HP http://toyotomi-footpath.com/ FB https://www.facebook.com/toyotomi-foot

豊富町大規模草地



MAGAZINE
記事一覧

EVENT
イベント

AREA
地域の情報

2013年07月18日 | チバタカコ

これぞ、北海道！でっかいどー！

#牧場

#観る

📍 稚内・留萌

見渡す限りの緑、遮るものがない空、道産子ライターでさえ「うわー！北海道だ！」と叫んでしまった風景がある町は、北海道のてっぺん、稚内市の南に位置する豊富（とよみ）町。そしてここは、「大規模草地牧場」。



▲大規模草地牧場は「おおきぼそうちぼくじょう」と読みます

（北海道ライカーズで紹介）

平成26年度「元気な湯治プロジェクト」定期体験プログラム事業

星空と音楽の夕べ

今年最後の
星空観覧会

@大規模草地牧場

星空にまつわる様々なジャンルの音楽をバックに
星空ガイドサロベツの満天の星空をご案内します

9月22日（月）

19:00~20:30

※天候不順の場合は翌日9月23日
（火・秋分の日）に延期

参加費：**無料！！** 定員40名

集合：豊富温泉の各宿（ニュー温泉閣、川島旅館、
ホテル豊富、湯快宿）の前に19:00までにお越
しください。

※観覧場所までバスで移動します。

〈持ち物〉 暖かい服装（かなり冷え込みます！！）
〈申込み締め切り〉 当日 午後5時まで
〈申込み・お問い合わせ〉 豊富温泉コンシェルジュデスク（ふれあいセンター内）
TEL: 0162-82-3782
・NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
（サロベツ温泉センター内）
TEL: 0162-82-3232 FAX: 0162-82-1009
Eメール info@sarobetsu.or.jp
※温泉各宿の受付でもお申込みできます。

〈企画・運営〉 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

夜は満点の星空

環境保全活動にも人は集まる



砂丘林再生事業



泥炭採掘跡地再生

サロベツ湿原 バックヤードツアー

参加無料!
要申込

普段は立入禁止の調査用木道を
歩いて湿原の奥へ...

開拓の歴史を振り返りながら
サロベツ湿原の保全・再生に向けた
「自然再生」の最前線にご案内します

泥炭採掘跡地

復活した蘆葦池

7~10月の限定ツアー
10時集合・12時解散
※7/10と7/24の回のみ、13時~16時に実施

<開催日>
なるべくお早めにお申し込みください

7月: 10・18・24
(13時集合) (15時解散)

8月: 11・21・28

9月: 4・11・18

10月: 2・16

集合: サロベツ湿原センター 10時
※雨天の場合は中止とし、当日朝9時までにご連絡します

対象: 高校生以上/定員6名 (定員になり次第、締め切ります)

その他: 足元が悪いため、汚れても良い動きやすい服
靴・雨具※調査用木道を往復約3km歩きます

お申込み・お問い合わせ
サロベツ湿原センター (天塩郡豊富町上サロベツ8662)
TEL: 0162-82-3950 FAX: 0162-82-1009
E-mail: info@sarobetsu.or.jp [サロベツ湿原](#) で検索!

主催: 環境省稚内自然保護官事務所 (運営: 認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

自然再生地を訪問

これらの資源は良好な自然環境が維持されている限り、永続的な利用が可能。繰り返し訪れる人も多い。
活用可能な潜在的な資源をうまく利用すれば、観光産業としての地域活性化が期待できる。



この地域にとっての風車

- 自然エネルギーの重要性には異論がない
- 地域の将来を大きく左右する大規模な風車計画
- 環境影響は不確実性が大きいが、風車は一度建設されると稼働の停止や撤去などが困難。
- 情報の周知・ゾーニング・関係機関による協議や合意形成が不足
- 特有の景観や野生生物やそれらに関連する観光資源が大きく損なわれる恐れがある。
- 地元の関連団体などを含めた協議の中で、地域にとって風車の利益・不利益を慎重に検証した上で、予防原則に基づきゾーニングを行うことが必要。

発表は以上です

